充実したキャンプファイヤー・キャンドルファイヤーの実施に向けて

なす高原自然の家

１　ねらい

（１）厳粛な雰囲気の中で、連帯感・協調性・団結心を養う。

（２）創意と工夫を凝らし、出し物を作り、発表し鑑賞する。

２　係

　・火の神（１名）：営火のつどいの責任者（はじめの言葉、終わりの言葉）。別名「火の長」

　・営火長（１名）：キャンプファイヤーの火の管理。別名「ファイヤーキーパー」

　・司　会（１名）：全体の進行、歌・ゲームの指導等

　・代　表（数名）：分火の際の誓いの言葉（班長等でよい）

　・機　械（１名）：司会や営火長が兼ねてもよい

３　準備

　・会場作りと用具

　　【キャンプファイヤー】火かご、火ばさみ、トーチ、バケツの設置、衣装とつえの貸出。薪をくみ灯油をかける

　　【キャンドルファイヤー】キャンドルツリー（ブルーシートを下に敷く）、大ろうそくの設置、衣装とつえの貸出。手持ち燭台の用意

　・各班の出し物

　・機器の取扱説明

４　展開例（ここにある展開例を参考に、団体独自の方法で活動をすすめてください）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| プログラム | 司会の言葉 | 他の係の動き・留意事項 | 時間 |
| はじめの儀式 | 全員入場 |  | ・静かに入場し、火かご（キャンドルツリー）を中心に円形に座る。・会場の照明を消す。 | １５ |
| 開会の言葉 | ・これから○○○○のキャンプ（キャンドル）ファイヤーを始めます。・はじめに聖なる火を迎えます。「遠き山に日は落ちて」の１番を歌い、２番からはハミングでお願いします。 | ・火の神：トーチ（大燭台）に着火して入場し、場内を一周する。 |
| 火の神の言葉 | ・火の神のお言葉をお願いします。＜火の神の言葉＞※６参照 | ・火に関すること、研修の目的や成果、友情・平和等について感銘を与えるように話す。 |
| 分火 | ・分火を行います。代表は内側に一歩出て準備してください。＜分火の言葉＞※６参照 | ・火の神が各代表一人ずつに、火をつけ言葉を贈る。・火の神は迅速に着火し、延焼トラブルを避ける。・事前の打ち合わせを十分にしておく。 |
| 誓いの言葉 | ・代表は誓いの言葉をお願いします。＜誓いの言葉＞６参照 | ・代表は大きな声で、事前に考えておいた、自分の火の名前にちなんだ誓いの言葉をいう。 |
| 点火 | ・点火と同時に「燃えろよ燃えろ」を歌います。それでは、火かご（キャンドルツリー）に点火してください。 | ・キャンドルファイヤーの場合は、代表のろうそくを、そのままキャンドルツリーに立ててもよい。・機械係はＢＧＭ準備 |
| 交歓のつどい | ・はじめの部分は、気持ちや身体をほぐすような動作の入ったものや、スキンシップのあるゲームなどがよい。・中程では参加者による出し物を軸にして、歌やゲームを入れていきながら雰囲気を盛り上げる。・全体の３分の２ほど進んだところで、最も盛り上がるようなダンスやゲームをもってくる。・終盤は気持ちを静めていく。 | ・照明をつけて明るくする。・キャンドルファイヤーの場合キャンドルツリーは、隅へ移動し、参加者に気づかれないようにろうそくの火を消しておいてもよい。 | ６０～９０ |
| おわりの儀式 | 全員着席 |  | ・自席に戻り静かに座る。・会場の照明を消す。・キャンドルファイヤーの場合は、キャンドルツリーを中央に戻し、火をつけ、全員に個人燭台とろうそくを渡しておく。 | １５ |
| 開始の言葉 | ・楽しい時間は早く過ぎます。これからおわりの儀式を始めます。 |  |
| 火の神の言葉 | ・再び火の神の言葉をお願いします。＜火の神の言葉＞ | ・火の神は、火への感謝と全員への勇気づけとなる言葉を贈る。 |
| 【キャンドルファイヤー】分火 | ・火の神の両隣の人は火をいただいて、次の人に送ってください。 | ・火をもらう人のろうそく（火のついていないろうそく）を、火のついているろうそくに近づける。 |
| 歌 | ・「今日の日はさようなら」の１番を歌い、２番からはハミングでお願いします。 |  |
| 【キャンドルファイヤー】消火 | ・火の神の両隣の人から順にろうそくの火を静かに消してください。 |  |
| 終了宣言 | ・以上でキャンプ（キャンドル）ファイヤーを終わりにします。 |  |

５　片づけ

・用具の片づけ

【キャンプファイヤー】火かごの火はそのまま燃やし続け清掃は翌朝に行う。トーチは、針金を倉庫内の所定の場所に捨て、トーチの芯は燃えるゴミとして処分する。トーチ本体は、事務室に返却。

　【キャンドルファイヤー】キャンドルツリー、ブルーシートは元の場所に戻す。

６　「火の神・誓いの言葉」等の例

（１）火の神の言葉

　　①赤く染まった太陽が、遠く酉の山なみに沈み、夜のとばりも降りました。友情と団結を深め、力強く生きることを願ってここに集う皆さん。今ここにともされたキャンドルの火、この火は弱くとも、ひとたび燃えさかれば、全ての醜さを焼き尽くし、世の中を明るく、正しく、力強く生きるための情熱を得る大きな原動力となるものと信じます。聖なる火の下、今宵、楽しく過ごそうではありませんか。

②野山に獣を追い、海や川にその日の糧を求めて暮らしていた太古の人々によって発見されたこの火。原子の火がともされ始めた今日まで、火は長い長い人の世の歴史を守り、燃え続けてきました。ここにともる、このキャンドルの炎は、私たち人間の若き心です。そよ吹く風に、今にも消えるかと見えて消えず燃えさかればたちまち万物を焼き尽くす勢いを見せ、その限りを知らぬエネルギーは、無限の可能性を求めて止まぬ若人の情熱そのものです。聖なる火の下、今宵、楽しく過ごそうではありませんか。

③この炎は、数千年もの長きに渡って活動し続ける那須の主峰・茶日岳から取ってきた御神火です。私たち人類の祖先は、この火の発見により、冬の寒さをしのぎ、野獣から命を守り、温かい食事を手に入れ、暗闇に光をともし、文明を築いてきました。やがてこの火は人類に希望と幸福をもたらし、輝かしい文化と文明を創造しました。今夜は、こうした火の恵みに感謝しつつ、この火を囲み、楽しい思い出ができるよう、協力して充実した時間を過ごしましょう。

（２）分火・誓いの言葉

「友情の火」例：私たちはこの「友情の火」に、永遠の友情を誓います。

　　　　　　例：この火は「友情の火」です。私たちはこの宿泊体験で、これまで以上に友情を深め、多くの友達を作り、変わらぬ友情を持ち続けることをこの火に誓います。

「情熱の火」例：私たちはこの「情熱の火」の様に、燃え盛る情熱を持ち続けることを誓います。

　　　　　　例：この火は「情熱の火」です。私たちは何事にも熱い心で取り組み、困難に負けず、正々堂々と乗り越えることをこの火に誓います。

「平和の火」例：私たちはこの「平和の火」に、世界平和の実現に努力することを誓います。

　　　　　　例：この火は「平和の火」です。世界の平和のために、みんなが力を合わせ、よりよい未来を作り上げることを、この火に誓います。

「協力の火」例：私たちはこの「協力の火」のもとに、熱い協力の心を持ち続けることを誓います。

　　　　　　例：この火は「協力の火」です。一人一人が「みんなのために何かしよう」という心を大切にし、力を合わせて頑張ることをこの火に誓います。

「団結の火」例：私たちはこの「団結の火」に、力強く団結することを誓います。

　　　　　　例：この火は「団結の火」です。「１本の矢では折れても、３本なら折れない」という言葉の通り、強い心でみんなが団結することをこの火に誓います。